



発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田 高森町公民館
発行人
大 洞 利 雄
☎35-9416
印刷所
龍共印刷株式会社



高森町成人式 2018. 1. 3

成人式を終えて

斎藤 智人

まさか自分が実行委員に誘われるなんて思ってもみなくて、最初は不安でした

が、やはり同級生と何かを企画したり話し合ったりするのって楽しいんだなって実感しました。
なかなかこういう機会は

近藤 凜太郎

私は、昨年20歳になり、今年の1月には成人式を迎えることができました。この



実行委員の皆さん

うに、知識・体力をしつかり身につけるよう精進し、再度、身を引き締めて頑張りたいと思います。

成人式につきましては、私は、友人の誘いで成人式実行委員会に就かせていただきました。当日までの段取りや、当日の流れなどを町の方と一緒に考えて、当日は円滑に成人式を行うことができました。また、準備の段階でアトラクションの景品の買い出しなども楽しくできたのでよかったです。

成人式当日も、中学校の同級生と久しぶりに顔を合わせる事ができ、私自身も嬉しかったですし、同級生たちの喜んでる顔を見れた事も嬉しかったです。

私は、平成28年の4月から飯田広域消防本部の職員として働かせて頂いています。今年の4月になれば3年目となります。私はまだまだ未熟者ですが、先輩もでき、指導する立場にもなりまして、適切な指導ができるように、成人式がありました。

高田 菜帆
先日、成人式がありました。方々にお世話になりました。ありがとうございます。今後もしよろしくお願い致します。

年頭所感

高森町公民館長 大洞 利雄



明けましておめでとうございませう。皆様にはお元気で希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、町制施行60周年記念ということもあり、高森町公民館でも、冠に「町制施行」記念を加え、まなぶ・むすぶ・つどうという公民館の役割の原点に立った様々な活動を皆様とともに実践

してまいりました。

10月に実施の町民運動会

は今回をまとめとし、関係者のお骨折りにより多くの方が参加できる運動会、多世代の方が楽しむことができる運動会を趣旨に実施しました。当日は晴天の下、歴史ある運動会のまとめとし各種目に力いっぱい頑張っている選手の方々の姿が印象的でした。町民運動会が果たし

た。就職している人、進学している人、地元にいる人、いない人と様々ですが、みんな見た目は大人になっても中身は相変わらずで安心しました。久しぶりに友人や先生方に会ってくださったの思い出話ができ、とても楽しかったです。

そして今回、実行委員をやらせていただきました。仕事の都合で委員会を欠席することもあり、役に立てたかは分かりませんが、役場の方々、委員のみんなのおかげで楽しく活動できました。一生に一度の成人式に実行委員として携わることができ、より思い出深い成人式になりました。貴重な経験をすることができ、良かったです。

こうして私達が無事に成人式を迎えることができたのは、家族や先生方、そして地域の方々のおかげだと思っています。そういった方々への感謝の気持ちを忘れず、大人としての自覚と責任を

てきた地域住民のつながりの深化、心身の健康保持の推進については、各地域・各支館・分館では関係者の努力により敬老祭・文化祭・夏祭り・ふれあい広場等、地域の実態をふまえた一層の深化拡充のために頑張っていました。子ども達の歌や踊りは会場の雰囲気

持ち、少しでも町に貢献していきたいです。私達のために盛大な式を催していただきありがとうございます。今後とも、よろしくお願ひ致します。

北原 望美

1月3日に成人式が行われました。

卒業してから1度も会っていない友人もあり、懐かしくとも楽しい時間を過ごすことができました。

すでに就職している人、県外へ出て勉強をしている人など、友人が頑張っていることを知り、自分も頑張らなくてはと思いました。

4月からは、この高森町で保育士として働きます。今までお世話になった町に貢献できるような頑張りたいと思います。

そして今まで支えてくれた家族や友人、周りの方々への感謝の気持ちを大切にしていきたいです。

を担ってくれることを願う声も多かったようです。

本年は、昨年の活動の成果を大切に、地域の良さを自主的に学ぶ講座の充実、二コーススポーツの体験等を通じた多世代の交流の実践、公民館のホームページの効果的活用等を重点とし、公民館職員一同努力していく所存です。皆様方の一層のご支援ご協力をお願いいたします。

最後となりましたが、今年一年が皆様方にとりまして充実した年となりますことを心よりご祈念申し上げます。

三面鏡

最近気に入ったものがない。三十歳代のころは車やバイク、電化製品など心ひかれるデザインがあった。ところが近頃、車やトラクタなどのデザインがいまいち心にひびかないのである。なぜなのか▼最先端のデザインの車やトラクタは、空力、走行性能、安全性、そして生産効率を考慮しているのだから、皆同じに見えるつまらないのである。最先端のデザインを受け入れることができず、自分の趣向に固執してしまっているのは、感性が鈍くなってきたのだと思う▼かつては他人の意見を聞いたり、気が乗らないと思うことも参加することに抵抗がなかった。ところが今は「イヤなもの」「イヤ」という自分の意志を通す。そうする自分に気づき、そんな自分に驚く。年とともに柔軟さを失っていきののだなと思う▼ただ純粋に『今』のデザインをあらためて眺めてみると、デザインの向こうに、現代の縮こまった世界が見えてくるかも知れないし、縮こまった自分が見えてくるかも知れない。それでも今まで通り手で作り、感じることは続けていきたい▼近いうちになるであろう、融通の利かない頑固じじいになっても。

伊藤さんは岐阜県出身ですが、信州(下伊那)で農業がしたいという夢を持たれ、飯田市のワーキングホリデー制度を利用して一年程経験を積まれました。その後、飯田市山本の農家さんにて本格的に研修を受けるため、ご家族と共にＩターンをされました。それから一年後、いよ

業を始めて7年、今後の夢について尋ねると、「先ず、早く一人前になること」だそうです。そして「Iターン農家の見本となれば後に続いて農家を目指す人が増えて、遊休農地を抱える高森町に恩返しができるのではないか」と語ってくれました。

今では9棟のハウスを管理している伊藤さんですが、悩みの種は人の手が足りないことだそうです。「真剣に農業を考えている人がいれば一緒にやりたいですね」と笑顔でおっしゃっていました。

高森町に來られて、始めは3反歩程の畑でいろいろな野菜を作つて直売所で販売をしていたそうです。その野菜の中で、作っている人が少な

た。お名前の通り、温かい人柄で志を持ったすてきな方でした。高森町の未来を担う若手農家さんが増えることを切に願います。

成虫で越冬したタテハチョウ類などが飛び交っていて、採集ができました。

6月：天竜川河原で造形遊びを計画していたが、前

今の子供たちは郷土の自然体験が乏しくなってきた。毎年、少しずつ内容を替

実施してきました。今年度の活動を紹介します。

4月：南、北小学校の保護者子どもたちに計画を示し、クラブ員募集の連絡、クラブ員の決定。

5月：天竜川河原周
辺で昆虫採集。サナギ
で越冬し羽化したモン
シロチョウ、モンキチョ
ウ、シジミチョウ類、



昆虫採集

7月：天竜川河原周辺の昆虫採集。ヤナギの樹液に集まるカブトムシやクワガタムシなどの甲虫類の観察と採集が中心。

8月：川の生き物探

江戸ヶ沢で、カワ
ムツ、ハヤ、シジミ、
ジョウ、サワガニ、
カエビなどが採集で
ました。

10月：一日目は中華のまき作り。竹の皮を使いまき作り、みんなで楽しみました。二日目は竹で30年の干支「戌」を作りました。作品は、11月

の高森まるごと収穫祭で展示しました。

来年度も、内容を少し変えて続けます。大勢のクラブ員が集まることを楽しみにしています。

小正月飾りつくり

1月8日 高森町民俗資料館時の駅にて

1月8日、高森町歴史民俗資料館『時の駅』で小正月飾りづくりが行われ、今年は計60名の皆さんが参加してくれました。

きな粉や胡麻や餡子をまぶしました。お昼は皆で作った餅を食べながら資料館の館長さんに小正月についての話を聞きました。

まずは昔ながらの木の臼(うす)と杵(きね)を使つての餅つきです。当日は雪が舞うような寒い日でしたが、一人で杵が持てる子は力一杯、小さな子は手伝つてもらいながら、手をこすりながら一生懸命、皆でお餅をつきました。出来上がつたお餅は小さくちぎつて、

小正月にはほんやりを含め色々な行事があつて、今回作るのは餅花(もちばな)と繭玉(まゆだま)です。餅花はお米が沢山とれるように、繭玉はお蛭様がたくさん取れるようにという願いが込められていると教えて頂きました。お餅には不思議な力があると信じられていて、

実はお年玉も昔はお餅を貰うことだったとか。

小正月について学んだら
いよいよ餅花と繭玉を作り
ます。まずは餅花作り。小さ
く切った餅を、葉を落とし
た竹の枝に刺していきます。
先端のほうには稲穂に見立
てた長い餅を飾ることで、ぐっ

餅花作り

花を作りました。

最後に自分のミニ餅花を持って、餅花と繭玉の前で記念撮影！どれも上手に出来ました。

昔はこの家でも当たり前のように作られてきた小正月飾りも、今ではほとんど行われなくなっていました。

一番寒い時期に、本物の花のような餅花ときれいに色づいた繭玉を見ていると、一足早く春がきたようなワクワクした気持ちになります。込められた願いは勿論

のこと、この美しさも無くならないように、将来に伝えていきたいものです。

いに色をつけた赤・黄色・緑・
白の繭玉が並びました。

最後にお土産用にミニサイズの餅花を作りました。先ほどの竹とは違い葉っぱがついている小枝です。餅花を飾った時にきれいに見えるように適度に葉を残しながら各々オリジナルの餅

上手にできたね！

と。総務省が昨年発表した「通信利用動向調査」によると、人口普及率は1997年には9%台であったのが、以降増加の一途を辿り2016年には83%台にも及んでいる。

レシビ確認、最新ニュース、友達作り、最近では婚活まで、サイトの種類は極めて豊富である。これらはすべて

ことが出来てしまう。又、
買物に関しては、昔は地
元を主とし、時には何店舗
も自分で足を運んで決めた

で火を焚くと、そこへ子供から大人までが自然と集まって何かしらの話に花が咲き活気に満ちた時代が筆者の頭に時々蘇る。時代と共に人の価値観は変化していくものだが、やはり人間社会において

本来あるべき姿は媒体を介さない直接コミュニケーションであると思われる。今後各学校・自治体などが一層連携し、ネット世界では得られない、ふれあい活動の推進を期待している。

餅つきの様子

実はお年玉も昔はお餅を貰うことだったとか。

小正月について学んだら、いよいよ餅花と繭玉を作ります。まずは餅花作り。小さく切った餅を、葉を落とした竹の枝に刺していきます。先端のほうには稲穂に見立てた長い餅を飾ることで、ぐっ

最後に、お土産用にミニサイズの餅花を作りました。先ほどの竹とは違い、葉っぱがついている小枝です。餅花を飾った時にきれいに見えるように、適度に葉を残しながら、各々オリジナルの餅